

特選

2011
全国公民科・社会科
教育研究会会長賞

「金融と経済の明日」第9回高校生小論文コンクール

立ち上がれ日本！震災復興と日本経済のこれから

栃木県・佐野日本大学中等教育学校 4年 天下井 恵理

リーマンショックによる経済危機から立ち直る兆しを見せ始めていた日本は、3.11に起きた東日本大震災により、さらに厳しい状況に置かれた。ここまで日本の経済が悪いのはなぜだろうか？ これから日本はどのような道を進んでいけばよいのか？ 調べ、考えてみた。

2008年9月に起きた世界金融危機のひきがねとなったリーマンショックとは、一体どのようなことだったのか？

それは、投資銀行リーマン・ブラザーズの経営破綻が発端だった。サブプライムローン(低所得者に対しての高い金利のローン)が2000年前後に広がり、当時は住宅バブルの時代に突入しており大変な人気を集めた。住宅ローン会社は証券化された債券を証券会社や投資会社に売りつけた。なぜ、売りつけたのか？ サブプライムローンの場合は低所得者を対象としていたため、ローンを返せず債券が紙くずになるリスクがあるからだ。リスク分散のため、サブプライムローン債券は他の優良会社が発行する社債や通常の住宅ローン・ローリスクの証券などと混ぜてパッケージ商品化された。そして、アメリカの住宅バブルは2007年にはじけ、土地や住宅の値段は下落し、サブプライムローン債券の価格も暴落した。サブプライムローン債券は、他のものとパッケージ商品化されており投資銀行に買われては他の商品に仕立てられることが繰り返されていたので、中身がわからない状態になっていた。そのうちのひとつの銀行がリーマン・ブラザーズだったのである。

リーマンショックによって起こされた世界金融危機(2008年9月～)の日本経済への影響はどの程度だったのか？ 経済成長率(名目GDP)は、-5.3%、鉱工業生産指数-38.4%、株価-53.2%、失業率5.7%であった。¹⁾

では、3.11に起きた東日本大震災による経済への影響はどうだったのだろうか？ 「2011年3月23日、内閣府は、東日本大震災による直接的な被害額は16～

25兆円という試算を発表しました。これにより11年度の実質GDPは、0.2～0.5%（1兆2,500億円～2兆7,500億円）落ち込むものと予想されます。しかもこの試算には、福島第一原発の事故や計画停電による影響、消費者心理の悪化などは織り込まれていません²⁾ということは、もっと値は落ち込むだろう。「当初1.5%程度を見込まれていた経済成長率も、震災を受けてほとんどゼロ成長がやっとという状況が現実味を帯びてきました」「農林水産省によると5月31日現在、第一次産業の被害総額は約1兆8,000億円。その内訳は、水産関係が9,023億円、農地・農業用施設は7,137億円、農作物等が505億円、林野関係が1,191億円です」²⁾被害総額は、阪神・淡路大震災のなんと2倍以上である。ものすごい額であることがわかった。そして、一気に不況への逆戻りの可能性が高いことも理解できた。

震災後、「円高」がどんどん加速している。3月中旬1ドル＝76円25銭という驚きの数字を出している。なぜ、ここまで円高が進んでしまったのだろうか？

リーマンショックをきっかけにアメリカが金融危機に陥った時、景気対策のために国債をどんどん発行したのである。そのため、投資家にドル不安が広がり、その結果ドル安ユーロ高現象が起こった。しかし、ギリシャが巨額の財政赤字を抱えていることが発覚しユーロの価格が下落した。そして円買いに走ったのだ。円の信頼が高くなっていることはいいことかと思う。しかし、日本は輸出大国だ。円高は、輸出企業にとっては不利だ。日本の多くの会社が収益が減少し、経済の悪循環をうむ事になる。

8月4日、政府・日本銀行は、ついに「円高阻止に向け、円売り介入と追加金融緩和を『合わせ技』として繰り出す異例の対応に踏み切った」³⁾これにより、円相場は1ドル＝77円10銭から80円台まで急落した。一定の効果はあったと思われる。しかし、「産業界には、日本企業が国際競争に何とか勝ち残れる円の水準として、『1ドル＝85円が限界だ』との指摘が強い」³⁾まだまだ楽観は出来ないし、厳しい状況は続いているのだろう。

震災前、日本は長期低迷時代にあった。サブプライムローン問題からリーマンショックへと続き、全世界を巻き込んだ金融危機のなか、デフレ、円高、増え続ける国の借金、経済成長率の低下、失業率の増加、少子高齢化……。多くの問題を抱えていた日本は、震災により大きな痛手を受けた。

日本は、これからどのようにして、この困難な状況から抜け出していったらいいのだろうか？

「日本は再起不能だ。このまま破綻する」と悲観的な声も聞こえる。本当にそうだろうか？

この震災は本当に多くの被害をもたらしたが、私たち日本人にいくつかの重要なことを気づかせてくれたと思う。

一つ目は、日本の技術力の高さだ。震災では東北地方の製造拠点が被害を受け、世界的に自動車や電機の部品供給に支障が出たため、世界の電子工業や自動車企業の生産活動が停滞したのだ。日本が世界経済にとって必要不可欠な技術の多くを担っていることがわかった。

二つ目は、日本の先進国としての力だ。本来、これほどの大災害で経済が悪くなると、その国の通貨は売られて下がるはず。それが円高になるということは、それだけ世界から見て「日本はまだまだお金持ち」だということらしい。日本の先進国としての力に、当の日本人が気づかずに過小評価しているのだ。

三つ目は、日本人の特性の素晴らしさだ。「海外メディアの多くは、避難所暮らしを強いられた被災者たちの規律正しさや忍耐強さに着目した。『ほかの被災国でしばしば噴出する怒りやいらだちはほとんどない』（AP通信）」⁴⁾また、早稲田大学の中国人研究員は国際問題専門紙・環球時報(英語版)に「日本人は平時は言い争いが絶えないが、危機に直面すると即座に団結する。日本人の一貫性と協調性は国家全体の復興の源泉だ」と寄稿しているそうだ。⁴⁾日本人にとっては当たり前な行動が、他の国の人々からは称賛される。このことを日本人は誇りに思っているのではないか。

これらのことの中に、震災を乗り越え、この厳しい経済状況を改善するヒントがあるのではないかと思う。

まず、第一に日本は日本にしか出来ない技術を世界に売っていくことが大切ではないかと思う。日本は資源はないが、高い技術力がある。高度な電子部品、長距離高速鉄道や都市鉄道、省エネ技術、環境技術、新素材、iPS細胞等の医療技術。

また、震災復興を通して新たに獲得する技術もあると思う。原発のあり方を問われている今、代替エネルギーの研究も急速に進むだろう。また、原発事故の

処理を通して汚染水や放射性廃棄物の処理技術も否応なしに進むのではないだろうか？

これらの技術を国を挙げて育て、海外へ売っていくことに力を注げば、新しい経済成長が望めるのではないかと思う。

次に円高についてだが、極端に進むのは弊害が多いが、程度によっては悪いことばかりではない。メリットは、輸入品が安く手に入るので石油を輸入する電力会社や紙・パルプ産業、輸入資源に頼る企業にとってはいい状態なのだ。資源の少ない日本にとっては円高メリットは大きい。このことを最大限活かしていきたい。

最後に日本が震災復興を成し遂げ、経済を立て直すために必要なことは、私たち日本人一人一人の意識だ。

震災の惨状をテレビを通して目にした時、「何か自分のできることをしなくては」と考えた人が多かったのではないだろうか。震災前と後では、日本人の意識は変わったと思う。日本人であることをより自覚するようになったのではないだろうか？ 復興には長い時間を要する。一人一人が復興の当事者であることを意識し続けることが大切ではないかと思う。

日本全体が団結していくことが厳しい状況から抜け出せる近道ではないか。

<参考文献>

- ・池上彰『池上彰の学べるニュース2』海竜社、2010年
- ・池上彰『池上彰の学べるニュース3』海竜社、2010年

(注)

- 1) 神樹兵輔『学校で教えない教科書 面白いほどよくわかる世界経済』日本文芸社、2010年
- 2) 長谷川慶太郎監修『震災後の日本経済がわかる本』宝島社、2011年
- 3) 読売新聞 2011年8月5日「円高阻止『合わせ技』介入+追加緩和 市場の意表突く」
- 4) 読売新聞 2011年4月6日「原発対応 いらだつ各国 汚染水放出『無責任』 韓露から反発の声」

